

識が必要であり。其の知識を得るには、採集の間に深く自然の現象を理解しようと勉めるのが一つの方法であると思ふのである。

又昆蟲は、人類實際の生活上に關係が深いのである。例へば人類に害をする點から云ふと、人體から血を吸ふ蚊、蚤、南京蟲がある。病氣の媒介をする蠅、蚊、などがある。人類の使用して居る衣食住を害するものを挙げれば家を食ふ白蟻がある。衣服を害する衣蛾がある。食物では米には米象、麥には麥蛾、鯉節にカツブシムシ、と云ふやうに、貯藏してある食物につくも

のも多いので、又是等の物を作つて居る場合には殊に多くの害蟲がある。稻、麥、豆類等の農作物、果樹や蔬菜類の園藝品。或は森林の如き、或は又吾々の目を樂しましめる庭園や公園の樹木とか花卉などに至るまで、種々雑多の害蟲が出て来て、時には全然是等の作物を蝕害して何も穫れないやうにしてしまふ事も少くない。害が少い時でも、農作物の毎年昆蟲の爲めに收穫を減ずる事は一割に及ぶであらうと云ふ事であるから、非常な損害であると云はなければならぬ。又我々の飼役する馬とか牛とか雞とかにも種々の害蟲が出来る。斯様に人類に害をす

るものも少くないが、一方には又利益をする昆虫も多少はある。例へば絹糸を生ずる蠶の類、蜜を造る蜜蜂とか、單寧をとる五倍子蟲の様なものがある。殊に絹糸の様な我國の輸出品として主要な位置を占るものもある。斯様に直接に人類に利益になるばかりでなく、間接な利益のあるものもある。例へば農作物などにつく害蟲を食つたり、又其に寄生したりして害蟲を殺す昆虫も少くない。吾々は夏の夕邊に飛び交つて蚊を食ふ蜻蛉を見るが、斯様な昆虫は非常に多く、吾々の知らない間に害蟲を驅除して呉れて居るのである。近頃では是等の益蟲を養つて害

蟲を驅除して居る程である。

斯様に人類と密接な利害の關係のある昆虫であるから、其知識を有して居なければならぬといふ理由も明かであらう。其故採集を只標本の採集とせず、知識の採集も是に伴ふやうにしたいものだと希望する次第である。

参考書 研究するには参考書が必要である。自然物を研究するには、決して書籍に依らないで自然物から直接に観察研究しなければいけないのであるが、初めから自然物についても判り難いから、書籍の手引によつて自然物から知識を得なければな

らぬ。而して自然から直接得た知識は最も正確で信用すべきものであつて、決して書籍を妄信してはならない事を特に御注意する。

初學者の手引になるやうな書籍が今の處無いのは甚だ遺憾な事で、茲に御紹介する事が出来ないから、多少難かしくても信用の出来る本だけを書いて置かう。

分類の方の本、即ち類科屬等の別け方とか名稱などを調べる本では、

(一) 日本昆蟲學 松村松年著

(一圓五十錢)

多少古いものだけれども、全體の事が簡單にわかる便利がある。

(二) 昆蟲分類學 松村松年著 上卷 (五圓)

一部分しかないが、前者よりは詳しい。

(三) 日本千蟲圖解 松村松年著 四冊 (二十圓)

(四) 續日本千蟲圖解 同上 四冊 (二十一圓)

(五) 新日本千蟲圖解 同上 一冊 (五圓)

この三種は、詳しいけれども初學者には適しない。

(六) 蝶類圖說 宮島幹之助著 (四圓)

内地の蝶が鮮明な色刷圖版と説明とで一見してわかるやうにな

つて居る。

(七) 鱗翅類汎論 長野菊次郎著 (一圓五十錢)

鱗翅類の一般の事から分類の大體を記したものである。

(八) 介殼蟲圖説 桑名伊之吉著 上 (六圓)

介殼蟲と色彩圖で説明したもので上巻のみ。

(九) 日本昆蟲目録(鱗翅類ノ部) 松村松年著

日本に産する鱗翅類の名を擧げたもの。

昆蟲の形態とか、生理とか、又は生活の有様とか、他の動植物

との關係を述べたのに、

(一〇) フォルツム氏昆蟲學 三宅 恆方 共譯 (四圓)

がある。原書が評判のよい本であるし、他に其程新しく詳しい

日本語の本はないから、是非参考せられたいと思ふ。此他に生

態の事を書いたものもあるが、面白いものはない。

種々の害蟲について記したものは、

(一一) 農作物害蟲篇 佐々木忠次郎著 (二圓)

(一二) 日本樹木害蟲篇 同上 (二圓五十錢)

(一三) 果樹害蟲篇 同上 (二圓五十錢)

(一四) 日本害蟲篇 松村松年著 (三圓三十錢)

昆蟲採集法

一九四

(一五)實用昆蟲學 小貫信太郎著

(一圓六十錢)

(一六)森林昆蟲學 新島善直著

(三圓)

(一七)大日本害蟲全書 松村松年著 上下

(四圓)

害蟲驅除法を記したものは

(一八)害蟲驅除法 桑名伊之吉著

(一圓六十錢)

以上は、信用する事の出来る本の中から主要なものを挙げたので、此の他にも参考に供するに足るものも少くないが、其は深く研究しようとする人へのみ必要なものであるか、又は信用するに足りないものかであるから茲には擧げない。

昆蟲を研究するには書籍ばかりではいけない。他の雑誌や報告をも参考しなければならぬ。

(一九)昆蟲世界月刊一冊拾錢 岐阜市名和昆蟲研究所の發行で、十數年續いて發行して居て、参考するに足る記事に乏しくない。
(二〇)動物學雜誌月刊一冊二十五錢 専門的の昆蟲の記事が折々出るから、進んで研究する人には参考になる。是他に各大學や試験場などの報告など、又は農業の方の雑誌にも参考の記事は出るが、一般の場合には必要はない。

名稱は如何にして知る可きか 名稱は前に列擧した参考書の

名稱は如何にして知るべきか

一から六までを見れば大體わかるが、最も捷徑は大學其他の標本と比較して見るか、又は昆蟲學の専門家に質問するのである。本邦の大學其他で昆蟲の標本の澤山ある所は、北から云ふと札幌の東北農科大學昆蟲學教室。東京では理科大學動物學教室。農科大學動物學教室。農商務省農事試験場。岐阜の名和昆蟲研究所等で、名和研究所の外は凡て公開してあるのでないから、一般の人は見に行くに不便である、其で各専門家に送るより他に途がないことになる。讀者で標本の名稱を調べて貰ひ度い希望のある方は、著者に御申込になれば、著者なり又は各専門家に紹介の勞を執るなりして研究を助けたいと思ふ。

本書の讀者へ

本書の記事又は標本の名稱等に就いての質問、及び標本の交換等、昆蟲採集上で、本書の讀者が著者に要求せられる事がある場合には、左記宛て直接著者に御申越を願ひたい。著者は出來得る限り、讀者の希望を満たす事に努めようと思ふ。

東京府下荏原郡目黒村下目黒六八五番地

矢野宗幹

大正四年六月二十七日印刷
大正四年七月一日發行

定價三十八錢

昆蟲採集法

不許複製

著者

矢野宗幹

發行人

東京市京橋區銀座四丁目四番地
渡邊新三郎

印刷人

東京市芝區愛宕町三丁目二番地
笠間音次

發行所

東京市京橋區銀座四丁目四番地
銀座書房

振替口座東京三〇三九六
電話京橋二二九八番

銀座書房新刊書目

コナン・ドイル

コナン・ドイルといへば、世界中に知れ渡つてゐる探偵文學、冒險小説の大家で、その作の波瀾變化に富み、奇想妙構筆に隨つて湧く有態は、到底何人も企て及ばぬところである。この傑作文庫は、その數百種の傑作中にも特に傑出したものを選んで我が文壇の新進作家の筆に上されたものその面白きこと眞に天下無比である。

第一篇

探偵疑問の指環

矢口達先生作
川端龍子先生裝幀挿繪
中版上製美本
價三十五錢郵稅四錢

突如として起つた二個の殺人事件は倫敦全市を震駭せしめた、その現場には二つとも同じ様に復讐的の文字が血を以て書かれてあつた。不思議なるこの事件は、探れば探るほど事件は迷宮に入るのであつたが、神の如き名探偵シヤアロツクホオムズの非凡なる力によつて、遂に犯人は縛についた。事件の原因も經過も明か

傑作文庫

になつた。何故の殺人ぞ、そこには美しくまた優しい愛の物語もある。痛快でそして優しい面白い讀物!

第二篇

小説 神祕 クロマア館の秘密

石川宰三郎先生作 中版布製美本
川端龍子先生裝幀挿繪 價卅五錢郵稅四錢

人里離れた海岸に立ち古したクロマア館、そこを借りて移つて來た豫備少將一家の不思議さ!! 人に明かさぬ父少將の惱苦と、優しく美しい少女の煩悶と、不思議なる白頭青年の憂苦とは、神祕なる波羅門聖者の復讐と相纏綿錯綜して、經なし緯をなしこの一篇をなしてゐる。不思議中の不思議なる物語、讀むものは、一章、節一節、汗を握り、唾を呑み、眼を睜らん。眞に傑作中の傑作。

□昇曙夢先生新著

露國及露國民

中版上製函入
定價九十錢
郵稅八錢

本書は、我が文壇隨一の露西亞通たる著者が、十有餘年間苦心の研究を傾注せられたもので従來世界の謎として不可解の雲に閉されてゐた露國國民性の特質と、其の國民生活を詳敘せられたものである。我が國には、元來最も露國文學が迎へられてゐながら、その國民性を理解してゐるものは殆どないといつてもよいのは遺憾である。本書は、この露國文學に一の背景を與へたもので、露國文學愛好者には勿論、日露兩國の情勢に顧みて何人にも興味深い絶好の讀物である。

37
440

37
440

終

